

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字鴛野1183番地1		
自己評価作成日	平成26年4月30日	評価結果市町村受理日	平成26年7月3日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者のみなさまが多くある施設の中からはなみずきを選んだご縁を大切に、地域の一員として、今ある力を発揮でき誇りと尊敬を保ち、ゆったり安心して生活が送れるよう、職員全員心をこめてお手伝いさせていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kan=true&Jizvsvocd=4490100288-00&PrefCd=44&Version](http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&Jizvsvocd=4490100288-00&PrefCd=44&Version)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成26年5月27日		

事業所は主要道路から近く、利便性の良い、住宅地の中心に位置しています。ホールの窓から眺める竹林に訪れる鳥のさえずりに、安らぎと爽やかな一日が始まります。職員は「自分の親と思ってお世話をする」を理念の1つとし、管理者と職員は絶妙のチームワークと、信頼関係で、利用者一人ひとりの目線にたって、笑顔と気配りで介護サービスを提供する姿は、家族の深い信頼関係に結びつき、満足度調査の結果に表れています。管理者は職員間のコミュニケーションを図り、職員相互のチーム力向上と、研修、勉強会を通し、知識及び技術力向上に取り組んでおり管理者、職員の熱意が感じられます。又、運営推進会議委員(地区長)の協力で、地域交流を行う中で、地域との関係も深まり、地域に貢献していく事業所を目指し、日々努力をしています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に職員はもとより、外部の方にも目につく場所に掲示しており、ことあるごとに意識付けや確認をし、日々の実践につなげています。	地域社会への貢献、生活自立能力を引き出すケア、利用者の尊厳等の思いを盛り込み事業所独自の理念を作成し、ホールや事務室に掲示しています。職員は「自分の親だったら・・・」を念頭に理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と職員は近隣に散歩や買い物に積極的に出かけるようにし顔なじみとなるよう努めています。また、お互いの行事には参加を心がけ、地域に開かれた施設を目指しています。	社会参加(地域交流)を理念の1つとして掲げており、運動会や敬老会、子供祭り等の地域行事に利用者とともに参加しています。又、施設主催の夏祭りや運動会に地域の方を招待し多数の参加も見られ地域交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の会合等で、認知症について事例や施設の取り組みなどを発表し、徐々に理解していただけるようになりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の人々や家族の方に参加いただき、施設の実際を報告し意見や情報交換の場としています。いただいた意見や情報は施設の運営や支援に反映し質の向上に努めています。	運営推進会議は利用者、家族代表、自治会長等多くの地域代表と市、地域包括支援センターの参加を得て隔月に、行われています。事業所の現状報告や地域との情報共有、認知症の理解等話し合い、出された意見は運営の参考にしています。	開所3年が経ち、運営推進会議では家族の参加希望も多く、各方面からの意見も活発に出され、双方向的な会議になっています。今後は職員の会議に対する意識向上に努められ、更に充実されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは事あるごとに連絡を取り、会議の参加や相談、助言など協力をいただいています。また、市開催の研修、勉強会へは積極的に参加しています。	運営推進会議に市担当者、地域包括支援センターの職員の参加があり、その機会に情報交換、相談等を行い相互の連携を図っています。市から研修情報が入り、積極的に職員の参加方向で検討をしています。その他、必要に応じて、市を訪問し相談や指導を仰ぐ等、日常的に協力体制を作っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを原則としており、安全面に配慮し、束縛のない毎日を送れるよう支援を心がけています。玄関の施錠は夜間のみ、防犯上の理由にてされています。	管理者は身体拘束、虐待のないケアを重点目標としており、マニュアルとともに年3~4回の研修を行い、職員の意識づけを行っています。職員はどんなに多忙であっても必ず顔を見て返事をするを共通認識としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされないよう注意を払い、防止に努めている	職員すべて虐待は人として絶対してはいけない事と理解し、また言葉使いにも人生の先輩として敬う気持ちで接するよう、事あるごとに話合っており、虐待につながるストレスや不満が溜まらないような職場環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や生年後見制度については職員すべてが周知しているわけではないため、勉強の機会を持ち、必要性のある利用者に活用できるように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長または管理者により十分な説明をし、納得、了承の上で署名捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望にはその都度対応し、家族には運営推進会議等にも参加いただき、貴重な意見、要望を運営に反映するとともに、行事にも参加していただくよう積極的に声かけしています。	家族の面会時には利用者の状況を伝えるとともに、積極的に話を聞く機会を作っています。利用者、家族の意見、要望は記録に残し、職員間で検討し対応しています。家族の安心と信頼に繋げ、何事もお互いに話しあえる関係構築に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は毎月の会議に発言の場を設け、時には個人面談も行い意見を聞くようにしています。これらを集約し、毎月の幹部会議で検討し運営に反映させています。	管理者は日々の職員とのふれあいの他、年2～3回の個人面談や会議で意見を聞き、臨機応変に対応することで運営に反映されています。日頃よりコミュニケーションを大切に意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けチームワーク強化に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況に負担のないよう配慮し、就業時間や職場環境整備に努めています。また面談の場を設け意見を聞くなどで個々の状態、状況の把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や勉強会の参加でスキルアップを図っています。ベテランが新人に指導する体制づくりで、よりよいケアができるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	よりよい施設を目指すためにも他施設との交流を図り、相互のサービスの質の向上をさせていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、本人の思いや状態の観察などで安心した環境を提供できるよう情報収集に努めます。また出来るだけ施設前に		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で、家族の思いや要望を聴き、サービスに反映させ、また、いつでも意見や要望等を出しやすい環境や関係づくりに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族を含め話し合った結果、必要なサービスであれば、施設外サービスでも説明、納得された上での対応に勤めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念である、自分の父母、祖父母と思い、心を込めてお世話するとともに、家族として、できる事や得意とする事は発揮できるように環境づくりに努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え、変化や気になることがあればその都度連絡するようにしています。また、施設行事等の参加の声を積極的に言い、一緒に過ごす時間が増えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの訪問があればその機会を大切に、またの訪問をしていただけるよう努めています。外出、外泊も環境を整え希望に添えるように努めています。電話での会話も相手の了解を得た上で希望に添えるように配慮しています。	生活歴や家族の聞き取りを参考に、馴染みの人や場との、継続的な交流の支援を行っています。が、知人等も高齢になり訪問も少なくなっているのが現状です。自宅への外泊支援等で近所の方と話をしたり、親類の面会を家族と相談し実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は個々の考えや趣味等を尊重し、孤立しないように努めます。また、全員が楽しめるイベントやゲームの提供などで利用者同士が自然に関わりを持てる環境に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の情報提供はもちろん、その後の様子等を電話等で伺うようにしています。要請があれば、直接の相談や支援をするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、個々の思いや希望などの把握に努めるとともに、いつでも職員へ話しやすい環境の提供に努めています。また、意思疎通の困難な方には、以前の暮らしぶりや家族などの意見を参考にさせてもらっています。	職員は利用者との会話、言動、表情から推察し、思い(本音)の把握に努めています。表出困難な利用者には、入浴時や夜間にゆっくり時間をかけて話しかけたり、利用者同志の会話の中からも、気づくことがあります。職員間での情報共有もできています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族等の情報を元に、なるべく馴染の暮らし方に添った、その人らしい生活を送れる支援ができるよう把握に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らし方を参考に毎日のバイタル、心身の状態を把握し、個々にあった運動や作業で残存機能の維持に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員参加で入居者個々のモニタリングを行い、本人、家族の意向や職員の意見、気づきを反映した介護計画に努めています。	介護計画は半年毎の見直しはもとより、利用者、家族の要望や、状況の変化に応じて臨機応変に対応をしています。毎月の会議では、計画とのズレがないか確認するとともに、変更の必要性を検討し、本人本位の個別的な計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子は個別に記録され、別に全員のバイタル、排泄、食事状況が一目で分かるようにしています。勤務交代時には申し送りとともに気づきや工夫等をノートに記し、職員全員が周知、共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生じる状況に、柔軟な対応でその時にベストと考えられる支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園やお店に出かけたり、祭り、運動会等地域の行事には積極的に参加するようにしています。地域の人と顔見知りになり、地域の一員として安心した生活を送れるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には本人、家族等の希望をお聞きし、かかりつけ医を決めています。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で緊急時にも速やかな対応ができるようにしています。	本人及び家族が希望するかかりつけ医となっています。近隣の各専門医や救急病院との連携も取れています。「本人や家族に安心して過ごして頂けるように」と事業所としての支援の取り組みが行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により個々の心身の状態の把握はされており、職員の気づきや報告には適切な指示、指導がされており、主治医との連携も適切に取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の関係者との連携を早期より築き、面会時には情報交換や相談に努め、退院時の受け入れがスムーズに運ぶよう環境整備を整えます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明をし、同意の上契約していますが、状況に応じその都度家族への確認はします。終末期が近づいた場合は、家族、主治医、看護師、職員で今後の方向性を話し合う会議を持ち、全職員で心を込めて支援します。	入居時には必ず重度化指針の説明を行い、同意、契約の手順を踏まえています。状況に応じ家族、主治医、職員を交え方向性についての話し合いも行っています。入院された利用者に対しても「家族として支援して行きたい」という考えを持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルは常に目にする場所へ貼付され、定期的に看護師による指導もしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を施行し、毎日の防火設備、施設全体をチェック表で点検しています。また、身近な物品等利用で、階段から入居者を安全に移動する方法等、職員全員が分かるよう実施訓練しています。	年2回の消防訓練の際には消火訓練や入居者の移動方法の検討も行われています。3分で消防車が来れるという場所に有る事、職員も近隣者や近隣の協力者にも恵まれています。「火災を出さない」との思いで毎日防災チェック表での点検を行っています。	消防署が近い、近隣の職員も数人いる、地域の協力体制も取り易いという環境に有り、今後はそのような協力体制のもと、夜間訓練や他の災害を踏まえ、より一層の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方や環境に配慮し、常に人生の先輩として敬意、心をこめて接するようにしています。	職員研修では「尊厳、プライバシー」についても十分話し合われています。職員も「利用者は家族」「人生の先輩」との思いで優しい声掛けで、利用者に接しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えたり、無理強いないで自己決定ができる環境の提供に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分を考慮し、何事にも柔軟な対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時には好きな衣類を選んでいただき、散髪、パーマ等希望の時は手配し、また毎日の整容には職員が声かけ等で心配りしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、好みの食べ物を聞く等で栄養士へ情報提供し希望を叶えたり、みんなでの手作りランチパーティを開いたりしています。	食事を楽しんで頂きたいとの思いで「手作りランチパーティ」を時折開催しています。又、雰囲気を変えて近隣のレストランでの食事会も行われ、食事が楽しいものになるように取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせる形態、量を提供し、医師の指示のSの方には応じた食事の提供をしています。また、脱水等にも注意を払い夜間にも水分補給を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には個々にあった口腔ケアの支援をするとともに、口腔内に不具合が生じた時には本人、家族に相談の上、専門医受診を勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを職員間で共有し、なるべくトイレでの排泄を心がけ、手すりを掴み立ったり移乗をしたり自立へむけての支援を心がけています。	排泄チェック表から、利用者のパターンを把握して「トイレでの排泄」を心がけ、利用者の残存能力を発揮して頂けるような声掛けを行い「自立した排泄」への取り組みが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立や食事の提供、看護師の運動指導、体調管理、また職員による定期的なトイレ誘導等でスムーズな排泄ができるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調に合わせて柔軟にできるようにしています。好みの入浴剤を入れ楽しめる工夫もしています。	入浴日は決まっていますが、他のフロアとも協力体制が取れており、本人の希望や体調に合わせています。季節や気候の変わり目を、入浴で感じて頂くように、菖蒲や入浴剤等も利用し、ゆったりと寛いで頂けるように取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせて、散歩や運動、休息を取り入れ、寝具を干したりと気持ちよく安眠できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬状況が分かるよう1冊にファイルされており、職員全員が周知しています。また毎日の血圧、血糖値等の変化にも留意し、変化あれば看護師により主治医への報告と指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事を日々の生活の中で、協力しながら役割分担し過ごしています。そんな中でのお茶の時間を楽しんだり、趣味に興じたりと気分転換を図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣への散歩や外出には希望に添えるように支援しています。四季折々の雰囲気や味わえるようにドライブも実施しており、また家への外出も困難な方も、職員同行で叶えられるよう配慮しています。	四季を五感で感じて頂くように、日常的に散歩を取り入れています。家族の協力を得て、季節のドライブにも取り組まれています。散歩の際には近隣の方々と積極的にかかわりを持つことで事業所や認知症の方々の理解を得られています。	地域の方々との関わりから事業所や認知症の方々への理解と協力を得ています。今後も更なる地域との関係の構築が期待できます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、近隣への買い物支援等はしており、困難な方には家族とも相談の上、希望に添えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話での会話ができるよう支援しています。また手紙については、希望があれば代読や代筆のお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は清潔に保ち、季節の草花や展示物で落ち着いて過ごせるような工夫に努めています。	共有スペースは事務所の横に有り、カウンターを低くし利用者とアイコンタクトが取れるようになっています。壁面には行事の写真を見やすいように拡大し貼り出しています。利用者の日常の動きに合わせ、掘まりながら安全に移動出来る様に、テーブル、椅子、ソファの配置に工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席には入居者の相性を等を考慮し配置を考えています。窓際のソファでは気の合う者同士がゆったり座り、お話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の馴染の家具や身の回りの品で過ごせるようにしています。清潔に生活できるような環境整備には配慮しています。	居室ごとに違う壁紙を使用し、個々の利用者の雰囲気大切に、居心地と安全を考えた居室作りに取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはなるべく自立での移動、移乗が可能なように手すりの設置、障害物のない環境を提供し、職員は見守り重視で、それぞれの、できることはなるべくしていただく支援を心がけています。		